

感染症 ひとくち情報

RSウイルス感染症の報告数が増加しています！

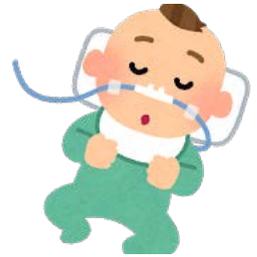


2019年8月8日

東京都健康安全研究センター

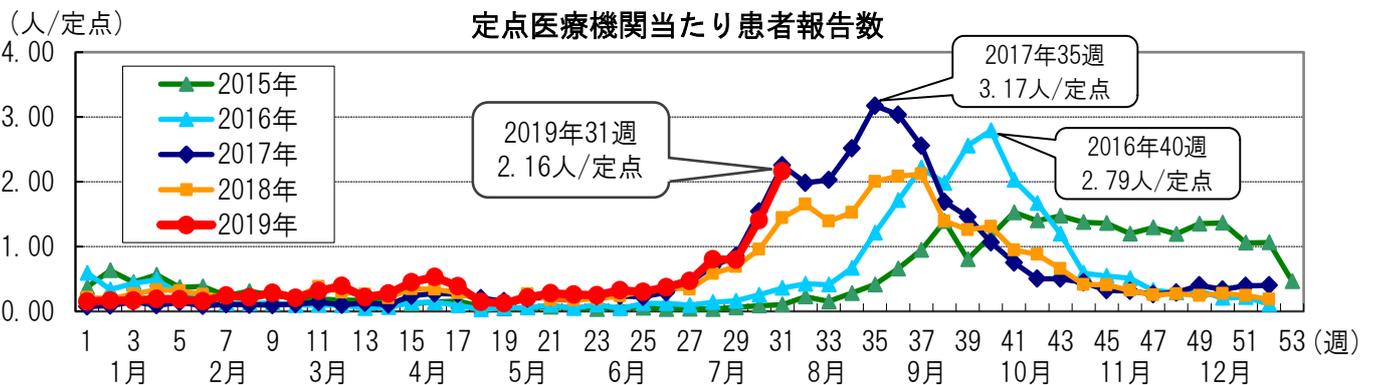
1. RSウイルス感染症とは

RSウイルスによる呼吸器感染症です。1歳までに50～70%以上が感染し、3歳までにはほぼすべての小児が少なくとも1度は感染すると言われています。症状は軽い風邪様症状から重い肺炎まで様々ですが、乳児期早期(生後数週間～数カ月間)にRSウイルスに初感染した場合、細気管支炎、肺炎といった重篤な症状を引き起こすことがあり、低出生体重児や心臓や肺に基礎疾患がある場合は重症化のリスクが高いです。RSウイルスは生涯にわたって感染を繰り返し、幼児期における再感染での発症はよくみられ、その多くは軽い症状です。治療は解熱剤の投与や水分補給などの対症療法が主となります。



2. 発生状況

例年冬期に流行が見られ、夏期は報告数が少なかったですが、近年は7月頃から報告数の増加傾向がみられるようになっていきます。



3. 感染経路

RSウイルス感染症は、感染している人が咳やくしゃみ、又は会話をした際に飛び散るしぶきを吸い込む飛まつ感染やウイルスがついている手指や物品(ドアノブ、手すり、スイッチ、机、椅子、おもちゃ、コップ等)を触ったり、赤ちゃんや子供がなめたりすることによる接触感染があります。

4. 予防について

咳等の呼吸器症状がある年長児や成人は、可能な限り0歳児から1歳児との接触を避けることが乳幼児の発症予防に繋がります。接触感染を予防するには、子どもたちが日常的に触れるおもちゃや手すりなどをこまめにアルコール又は塩素系の消毒剤等で消毒し、流水・石鹸による手洗いが重要です。また、咳等の症状がある場合にはマスクを着用する等の咳エチケットが有効です。

